

エゾノコンギク

Aster ageratoides ssp. ovatus f.yezoensis

キク科



エゾノコンギク

名前の由来

北海道に生育するノコンギク。ノコンギクは、花が濃紫青色で古くから栽培されているコンギクに対して、野に生えていることから名付けられた。漢字名：蝦夷野紺菊

魚類

形態的特徴

高さ50~100cmになり、茎は上方でよく枝分かれする。茎や葉の両面には硬い毛が密に生え、ざらつく。葉は長楕円形で縁には少数の粗い鋸歯があり、わずかに柄がある。花は上部で分かれた枝先に多数つき径は2~2.5cm、筒状花が円形に集まり、その周りを淡い青紫色の細長い花びらを持つ舌状花が取り囲む。舌状花は20枚以下になることが特徴。
類似種と見分け方：ユウゼンギク、ウラギク、ネバリノギク。全種とも全体の感じ、花の様子がよく似る
ユウゼンギクは全草無毛で、葉の基部がやや茎を抱き、舌状花が20枚以上になる点がエゾノコンギクと異なる。ウラ

ギクも全草無毛、葉は細長く厚みがあり、海岸近くの湿地に生育する点が異なる。ネバリノギクは有毛だが毛先が球状で触ると粘り、葉は細長く基部は茎を抱く点で異なる。

底生動物

爬虫類

トンボ

チヨウ

樹木

(草
在来種)

(外
草
來種
花)

哺乳類

(鳥
水辺
類)

(草
シタ
原
樹
林)

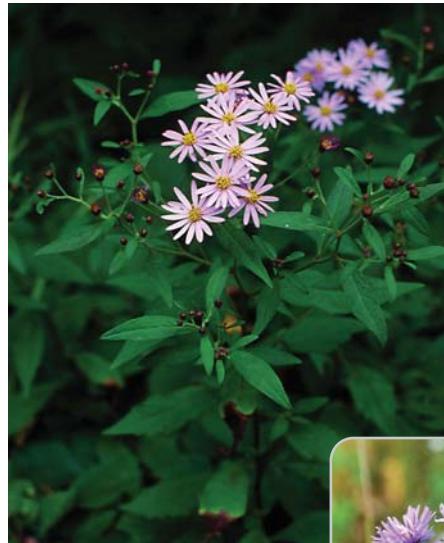
生育環境・分布

草原や山野で普通に生育する。

分布：国外分布は、日本固有種。国内分布は、北海道。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、草原や山野で普通に見られる。



（上）エゾノコンギクは花びら（舌状花という独立した花）が20枚以下



（右）類似種のネバリノギクは花びら（舌状花という独立した花）が60~110個以上が多い

生活史

開花時期：8~10月。開花までの年数：不明。

寿命：多年草。

他生物との関わり

花には虫が訪れる。

興味深い話

■この種も含めて東アジアからインドにかけて、外見がよく似た様々な型がある。ホソバコンギク、タニガワコンギク、ヤクシマノギク、センボンギクなどである。

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期												
結実期												

参考文献

「改訂版 牧野新日本植物圖鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

1982

「北海道植物図譜」滝田謙謙 自費出版 2001

「新版 北海道の花(増補版)」鮫島惇一郎・辻井達一・梅沢俊

「日本の野生植物 草本II」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社

北海道大学図書刊行会 1993